

令和6年度 第1回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閱覽用

1 開催日時 令和6年6月27日(木) 午後2時00分 開会

2 開催場所 丹波市春日住民センター

3 出席者 (委員)

北川博巳	会長	大野亮祐	副会長
清瀬真紀子	委員	竹内和重	委員
谷和義	委員	石田光	委員
小松正之	委員[代理出席]	長谷芳彦	委員
岡田勝	委員[代理出席]	永井敏之	委員
芦田恒男	委員	和田綱木	委員
清水徳幸	委員		

委員13名出席

(オブザーバー)

大木玲子(丹波市商工会参事)

4 欠席者

新屋敷昭一	委員	蘆田長門	委員
上田脩	委員	木原健太	委員
長田貴	委員		
オブザーバー	新田博史(兵庫県交通政策課副課長)		

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 議 事

- ① デマンドタクシーの状況分析について
- ② 路線バスの利用状況について
- ③ 鉄道の利用状況について
- ④ 令和5年度の実施事業及び決算について
- ⑤ 令和6年度の事業案及び予算について
- ⑥ 丹波市地域公共交通計画に基づく実績報告について
- ⑦ 令和7年度フィーダー補助計画認定申請について
- ⑧ 路線バス運行社会実験について
- ⑨ モビリティ・マネジメント事業の実施について
- ⑩ 公共交通の福祉施策について

4) 閉 会

1) 開 会

- 事務局挨拶
- 委員の紹介
- 配付資料の確認
 - 〈事前配布資料〉
 - ・会議次第
 - ・資料1から27
 - ・「丹波市地域公共交通計画」冊子（本年度より就任委員のみ）
 - 〈当日配布資料〉
 - ・地域公共交通計画 実績と指標
 - ・資料27 福祉による移動施策について（差替分）
 - ・新聞記事(3種)
 - ・丹波市地域公共交通活性化協議会委員名簿

2) 会長挨拶

今年度第1回目の公共交通活性化協議会となります。2年任期の2年目となりますので改めまして本年も引き続きよろしくお願いいたします。新しく委員に就任された方についても、よろしくお願いいたします。新しく委員に就任された方については、丹波市地域公共交通計画を机上に配付しておりますが、この計画はこれからの交通をどう維持していくか、活性化していくか、デマンドタクシーや路線バス、鉄道等の公共交通をどのように連携させていくか、今後のまちづくりとして何を考えていかなければならないのか等が計画として記載してあります。

今年度も丹波市地域公共交通計画に基づいて粛々と遂行していく次第でございます。

今回の議事にありますように、路線バス社会実験の取り組み等を中心に協議を進めたいと思います。

3) 議 事

① デマンドタクシーの状況分析について(事務局から説明)

【会長】

昨年度はコロナの影響もまだあり、コロナ前の数字に戻るのには難しいかなと思っておりました。

研究で兵庫県の他市のデマンドタクシー等も調べると、人口の2%ほどが利用者というデータが出てきております。本年度の結果報告で「リピーター」といった言葉が度々出ておりましたが、大事なのは、現在利用してくれている方が今後も乗り続けてくれるようにすること。

新規利用者を獲得するには、なにか「お試し制度」などの導入もいいのではないかと思います。

いずれにしても、70-80代以上の登録者数・利用者数ともに多いので高齢社会を支える乗り物だということを、心にとどめておきたいです。

「①デマンドタクシーの状況分析について」何か質問、意見等ございますか。

あわせて運行事業者さんから報告等お願いします。

(質問・意見等なし)

【委員(運行事業者)】

利用者の高齢化で80-90代の方のご利用が増えております。運行事業者として、運転手に対して、利用者さんの乗降や着席に十分時間をかけて運行するように指示しております。そして、当たり前ではありますが、急ハンドル・急ブレーキ・急発進などは十分気を付けて、出来るだけゆっくり走行するように指示をだして、今後も安全な運行で事故がないように努めていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

② 路線バスの利用状況について(事務局から説明)

【会長】

「②路線バスの利用状況について」何か質問、意見等ございますか。
あわせて運行事業者さんから報告等お願いします。

(質問・意見等なし)

【委員(運行事業者)】

新聞に取り上げていただいている通りで、大変嬉しいニュースが出てきたなと感じております。丹波市の場合、他の市町と比べると学校の統廃合や路線の見直しなどについて、非常に丁寧に実施されている印象があります。その丁寧さが路線バス利用者の増加に繋がってきているのではないかと思います。

丹波市の事案が新聞で取り上げられた際に、他の市町から弊社に問い合わせがいくつかありましたが、同じような地理や状況など一概には言えないので、受け取り方は人それぞれというところではありますが、丹波市の利用者数増加について、胸を張って喜んでいただければいいのではないかと思います。

【会長】

この成果に胸を張りましょう。
デマンドタクシーは高齢の方の生活で、バスはこどもたちの学校へのアクセスとなっていて、利用の棲み分けがかなり進んできており、これからの公共交通の利用を示しているのかなと感じるところが非常にあります。
デマンドタクシー、路線バスともに施策の改善・改良を進めていけるようよろしくお願いします。

③ 鉄道の利用状況について(事務局から説明)

【会長】

「③鉄道の利用状況について」何か質問、意見等ございますか。
あわせて運行事業者さんから報告等お願いします。

【委員(運行事業者)】

情報共有です。加古川線の利用促進で、谷川駅に特急こうのとりが期間限定で7月1日から9月30日の間、臨時停車します。

特急こうのとりは現在、全席指定席となっています。基本的に事前に切符を購入しないと乗車できませんが、空いている席があると「乗ってから切符を購入できるチケットレスサービス」を期間限定で実施しております。

④ 令和5年度の実施事業及び決算について(事務局から説明)

【監査委員】

監査報告を行います。令和5年度会計帳簿及び収支決算書につきまして通帳、帳簿ならびに、関係資料を確認いたしました結果、適正かつ正確な処理がされていたことを報告いたします。

【会長】

「④令和5年度の実施事業及び決算について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

令和5年度の実施事業及び決算について承認の方は挙手願います。

➡【令和5年度の実施事業及び決算については承認された。】

⑤ 令和6年度の事業案及び予算について(事務局から説明)

【会長】

予算については昨年度第3回の会議にて説明いただき既に承認済み事項ですが、改めて説明していただきました。

「⑤令和6年度の事業案及び予算について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

⑥ 丹波市地域公共交通計画に基づく実績報告について(事務局から説明)

【会長】

昨年3月策定の丹波市地域公共交通計画について、年度ごとに各公共交通機関の利用実績や収支の数値の報告をいただき、計画の進捗をみていきたいと思えます。

「⑥丹波市地域公共交通計画に基づく実績報告について」何か質問、意見等ございますか。

【委員】

鴨庄ふれあいバスは、鴨庄地域のみ運行しているバスで、運行日は週3日(月曜・水曜・金曜)で、利用者は1人暮らしの高齢者が多いです。利用者の方々は買い物目的が半分、お話し目的が半分のように感じております。

自治会長や自治振興会長などの役員が運転手をしております。運行を通じ、地域課題の認識や地域の困っている方を助けるような役割を担っていると感じております。免許証を返納した方やご高齢の方が引き続き乗っていただけるよう、持続可能な運行を目指してまいります。

(他、質問・意見等なし)

⑦ 令和7年度フィーダー補助計画認定申請について(事務局から説明)

【会長】

地域公共交通計画では、地域内のバス路線の維持のために様々な行政補助を活用することも記載しており、そのうち柏原～青垣線の大名草上バス停まで延伸になった路線については、国庫補助として「地域内フィーダー系統確保維持事業」を活用しています。この補助事業の活用には事前に協議会の承認を得ることとなっています。協議会に諮ることで、地域のバス路線を維持していきましょうという共通認識、意思確認を行う場となります。

昨年も同路線の補助活用について協議会で承認をいただきました。今回の補助は、令和7年度のフィーダー計画認定申請について、協議会の承認を得ることが必要となっています。

「⑦令和7年度フィーダー補助計画認定申請について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

令和7年度フィーダー補助計画認定申請について承認の方は挙手願います。

➡【令和7年度フィーダー補助計画認定申請については承認された。】

⑧ 路線バス運行社会実験について(事務局から説明)

【会長】

活性化協議会で実施中の社会実験について、昨年委員の皆様にご協賛いただき4月1日から7月31日までの期間、市島・春日地域から丹波医療センターまで路線バス運行の社会実験を行っています。この社会実験については、特に春日地域で中高生が通学に大勢使っていただいています。また、市島地域でも、将来の小学校統合に際して路線バスを通学利用することになっています。

「⑧路線バス運行社会実験について」何か質問、意見等ございますか。
あわせて運行事業者さんから報告等お願いします。

(質問・意見等なし)

【委員(運行事業者)】

社会実験で路線バスを運行している地域は春日地域の野瀬線です。平成20年から比べると利用者数が減少してきており、ここ10年ほどは横ばいの状態が続いております。なかなか利用者数が増加せず、路線の維持が難しいのではないかと話も出ておりました。

社会実験の結果をみると、中学生・高校生の通学利用での新たな需要の獲得が出来たのではないかと考えます。山南中学校の統合による遠距離路線バス通学の際も同じでしたが、モビリティの転換、新しい需要を獲得するのが難しい中で、着実に需要獲得していると実感できていることは運行事業者としてはとても有難く感じています。

令和8年度の小学校統合に向けて、まだ時間はありますが、このまま維持をしていきたいと思っております。

【会長】

今回は、3つの路線を一気に社会実験しているような実験です。1つは野瀬線、2つ目は市島地域内で路線バスに乗車してもらう実験、3つ目は、医療センターまで運行する実験です。

数字だけをみると、市島地域内での乗車と医療センターまでの運行の乗車数は少ないです。ただ、統合は令和8年度のため、急激に利用者は増えないものの、利用者増は相当見込めると考えております。

【委員】

委員ですが、市の立場として発言させていただきます。

社会実験の状況からみた今後の考え方について説明させていただきます。今回の社会実験の目的の1つが春日地域、市島地域の路線バスの維持、新設に向けての検討です。

先ほど会長が言われたように、野瀬から黒井駅までの中高生の通学、美和地区の小学生の通学、市島から医療センターまでの通院利用、これら3つの需要が一体の路線として考えております。

今回は需要調査のための社会実験として運行しています。実験期間は残り1ヶ月ありますが、現時点においても需要は想定以上に高かったことが分かりました。特に野瀬線では、中高生を中心に通学利用が一定定着してきており、社会実験終了後も引き続き路線バス通学をしたいとの希望を聞いています。社会実験前には、本当に中高生が路線バスを利用し通学してくれるのか、通学定期券をお守りとして所有するだけで利用しないのではないかという懸念もございました。しかし、新聞記事にも取り上げていただいたように、路線バス通学モニターとして参加していただいた学生からは「めっちゃ楽」といった喜びの声や感想もたくさんいただいています。このような、通学に路線バスを利用するという機運が高まっているチャンスを丹波市としては、逃したくないという強い思いがあります。

一方で課題もあります。「収益面」です。市島地域での運行や医療センター行きの運行については、一定の収益をあげようということになると、小学校の統合となる令和8年4月まで待たなければなりません。この時期まで待つことになると、今から1年8か月の空白期間が出来てしまい、非常に機運が下がってしまう懸念があります。そこで、一定の収益をあげている、野瀬線だけを運行するとなれば、運行事業者様には、運転手の確保等をご無理を言ってお願ひしているところ、更にかなり断片的な運行となるため、運転手の確保をしていただけるのか、かなり危惧しております。そういったことから、3路線1ルートとして運行できないかと考えております。

そこで、社会実験終了までまだ期間はありますが、市として新たに運行に必要な経費を予算化し、3路線1ルートの考えで本年度中から本格運行に向けた実証実験として運行をしたいと考えております。ついては、新たに実証実験の予算を確保でき次第、できるだけ早く実証実験として運行することについて協議会の了承を得たいと思います。

【会長】

本年度中の本格運行に向けた実証実験開始について承認の方は挙手願います。

➡【本年度中の本格運行に向けた実証実験開始については承認された。】

下半期の実証実験の詳細については、現在の実験内容をベースにダイヤ等を微修正し実施することについて、ご意見等ございますか。

(意見等なし)

【事務局】

下半期の実証実験となると、予算の確保や申請等の手続きもあることから、すぐに開始することは出来ませんので、11月頃を目途に開始できればと考えております。実証実験開始にあたり、運行事業者との調整や地元との協議をし、詳細を決めていきます。次回の活性協開催まで時間がないときは書面協議という形をとらせていただきたいと思います。

⑨ モビリティ・マネジメント事業の実施について（事務局から説明）

【会長】

地域の小中学生等若い世代、これまであまり公共交通利用になじみがなかった世代に、公共交通の重要性を知る機会を提供する「モビリティ・マネジメント事業」を行うということが、交通計画にも示されています。

今年度から各学校を回り、本格的に実施するという中で、今年は先ほどの路線バス社会実験と連動する形で、路線バスが運行している地域にある三輪小学校、春日中学校でモビリティ・マネジメントを行うこととし、すでに三輪小学校では5月に実施済みとの事です。

「⑨ モビリティ・マネジメント事業の実施について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

⑩ 公共交通の福祉施策について（事務局から説明）

【会長】

「⑩ 公共交通の福祉施策について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

⑪ その他について（事務局から説明）

- ・次回開催日について・・・9月末から10月
- ・実証実験の詳細案 書面協議について

4) 閉 会

【副会長】

本日は長時間にわたり慎重に議論いただきありがとうございました。